



- ・ JAUW 副会長挨拶
- ・ 東京支部総会報告
- ・ 記念講演「宇宙の神秘にせまる」唐牛宏氏

全国セミナーを支えていただく
東京支部会員への感謝

JAUW副会長 小西 厚子



平成15年3月17日午後、本部事務所玄関に続く小部屋には15日に印刷所からとどいた水色の表紙の2003年度全国セミナー報告書を封入した冊子小包が山積みになっていた。

山積みの冊子小包は、全会員および文科省をはじめとする関係諸機関宛に四谷郵便局から「特割郵便」で送るために、同じ郵便番号毎に紐でくくりに結ばれて積まれていた。

この作業、すなわち封筒の宛名貼り、袋詰、郵便番号毎の整理等を報告書の編集委員、広報委員の有志が三日間事務所に手弁当で日参して行なったのである。四谷郵便局員に搬出されるのを待つ間、最後の勤勞奉仕に関わった皆様と記念撮影をした。

私は、全国セミナーの企画委員長として、昨年5月の第1回企画委員会から始まった準備、10月のセミナーの実施、報告書の完成等々の歳月を思い返して感無量であった。

思えば、全国セミナーの企画委員、実行委員、報告書の編集委員等、セミナーにご協力いただいた方たちの大多数は、東京支部の会員の皆様であり、その献身的ご協力なくしては、私の役割を果たすことはできないのである。私は、そうした東京支部の会員の方々に感激するとともに心から深く感謝している。

この一年の私の役職経験から、あえて言わせていただければ、「JAUWという組織」は会員の献身的奉仕、もしくは無報酬労働によって成り立っていると言言できる。それらの奉仕労働の対価を計算すると幾ら位になるか興味があるが、「ずっとこうして来た」との先輩会員のご説明である。私もまた、今年度のセミナーの企画に携わって、プログラムもほぼ決定している。詳細は会報「JAUW」にゆずるが、東京支部の研究成果を期待するとともに、セミナーへの東京支部会員の皆様の昨年度に増すご協力、ご支援をお願いする。

事業報告・予定

- 4・12 JAUW第46回通常総会
- 4・13 於 仙台
- 4・19 東京支部総会
記念講演
「宇宙の神秘に迫る」
講師 唐牛 宏氏
- 5・17 守田科学研究奨励賞贈呈式
講演会
「女性の目から見た
激動のロシアの27年」
講師 松澤倫子氏
- 6・11 東京支部セミナー勉強会
講師 田中正子氏
- 7・1 「ともしび」第34号発行
- 7・3 観劇会「山川静夫名人劇場」
於 三越劇場(財務主催)
講演会
- 7・9 「中高年に多い肺の病気に
ついて」
講師 木田厚瑞氏
- 10・11 JAUW全国セミナー
於 国立女性教育会館
講演会
- 12・13 科学研究奨励委員会と共催
新春のつどい
国内奨学金贈呈式
- 3・1 「ともしび」第35号発行

以後の事業は追ってお知らせします。

2002年度(社)大学婦人協会東京支部決算報告書

2003年度予算

2002. 4. 1 ~ 2003. 3. 31

2003. 4. 1 ~ 2004. 3. 31

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 会費収入	1,395,000	1,389,000	-6,000	463口	1,395,000	465口
II 基本財産利息収入	1,000	527	-473		800	
III 運用財産利息収入	400	97	-303		200	
IV 寄付収入	300,000	384,000	84,000	パザー サークル 講演会一般参加費 他	300,000	パザー サークル 講演会一般参加費 他
V 雑収入	40,800	40,800	0	入会還付金 賛助会員還付金 他	39,200	入会還付金 賛助会員還付金 他
VI 調査研究費					50,000	全国セミナー研究発表(本部より)
A 当期収入合計	1,737,200	1,814,424	77,224		1,785,200	
B 前期繰越金	873,740	873,740	0		832,997	
C 収入合計(A+B)	2,610,940	2,688,164	77,224		2,618,197	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 管理費	957,200	950,662	-6,538		987,200	
(1) 備品費	10,000	0	-10,000		10,000	
(2) 消耗品費	110,000	107,347	-2,653	コピー代 用紙 他	110,000	コピー代 用紙 他
(3) 印刷製本費	30,000	26,900	-3,100	支部のお知らせ 封筒 他	30,000	支部のお知らせ 封筒 他
(4) 通信費	327,200	348,690	21,490	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他	327,200	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交通費	70,000	60,000	-10,000		70,000	
(6) 事務所費	120,000	120,000	0	本部へ分担金	120,000	本部へ分担金
(7) 事務手当	290,000	287,725	-2,275	職員給料一部負担 他	320,000	職員給料一部負担 他
II 運営費	110,000	122,938	12,938		110,000	
(1) 総会費	70,000	82,147	12,147	会場費 他	70,000	会場費 他
(2) 委員会費	40,000	40,791	791		40,000	
III 事業費	700,000	776,400	76,400		900,000	
(1) 一般事業費	600,000	626,400	26,400	ともしび(2回)講演会 寄付 他	600,000	ともしび(2回)講演会 寄付 他
(2) 国内奨学金	100,000	150,000	50,000	国内奨学金寄付	100,000	国内奨学金寄付
(3) 調査研究費					200,000	全国セミナー調査研究
IV 雑費	10,000	5,167	-4,833		10,000	
V 予備費	10,000	0	-10,000		10,000	
D 当期支出合計	1,787,200	1,855,167	67,967		2,017,200	
E 当期収支差額(A-D)	-50,000	-40,743	9,257		-232,000	
F 次期繰越金(C-D)	823,740	832,997	9,257		600,997	

基本財産状況：普通預金 ¥4,360,000 中央三井信託銀行新宿西口支店
 運用財産状況：繰越金 ¥823,650 中央三井信託銀行新宿西口支店
 現金 ¥9,347

会計 小池朋子 河井尚子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており間違いないことを証明いたします。

2003年4月9日

会計監査 高井敬子 坂上栄美子 (印省略)

東京支部総会報告

書記 片柳 洋子

2003年度東京支部総会は4月19日(土)、津田ホール内会議室で開催された。

支部会員数515名中、総出席者数65名、有効委任状提出者数240名で総会は成立した。

三浦支部長の挨拶に続き議事に入り、2002年度の事業報告、決算報告がされた。今年度は国内奨学金に対し、例年より多い15万円を寄付できたこともあわせて会計から報告された。次いで2003年度の事業計画案、予算案が審議され承認された。

その他、大学婦人協会の会員資格について少し話し合いが持たれたが、支部としての考えはもう少し時間をかけることで合意された。

議事終了後、今井会長が京都支部総会に出席されていたため、小西副会長よりご挨拶があった。

記念講演は、国立天文台ハワイ観測所所長・唐牛宏氏により「宇宙の神秘に迫る―世界最大の望遠鏡―」はるからーという演題で行われ、出席者全員が遠い宇宙に思いをはせた2時間であった。

記念講演 (03・4・19)

「宇宙の神秘に迫る」
世界最大の望遠鏡「すばる」から

講師 唐牛 宏氏



国立天文台ハワイ観測所所長である唐牛氏より日本の誇る大望遠鏡「すばる」のお話を伺った。前半は「すばる」はどのような望遠鏡か、後半はその「すばる」で何をするのか、についてであった。パソコンを駆使して周知な用意がなされていて、美しい画像やグラフによって2時間はあっという間に過ぎ、壮大な宇宙の神秘を垣間見た気分になった。面白いエピソードやわかりやすい例で楽しく聞けたけれど、コンパクトな高度な内容で、特に終わりに近くなるほどスピードが上がり、この小さい紙面に全容を盛り込むことはわたしの能力と理解力では不可能だが、少しでも雰囲気をお伝えできればと願っている。

「すばる」望遠鏡はわずかな光を集め、シャープな像を得るために様々な工夫がなされ、世界一を目指した。設置場所をハワイ島マウナケア山(4200メートル)山頂、空気の流れの影響が極力少ない場所とした。建物自体も接地境界層を避け、空気の流れを巻き上げないでそれらによる揺れをできるだけ少なくする特殊な形をしている。上空から見た写真をみせて下さったが、山頂付近に散らばっている各国の望遠鏡の中でも、ひととき目立つ存在である。そして、鏡(レンズではない)は直径8・2メートルのロボット主鏡とと呼ばれるもので、コンピュータ制御によって、支える力を加減して変形を直す装置を持っている。などなど作り方や手入れにも科学の粋を集めた「すばる」に感心した。

このような望遠鏡を作った理念や使命は何かというと、宇宙の探求を通じて人類の生活と精神を豊かにするためにであり、世界中の天文学者に世界最高の観測手段を提供し第一線の科学的成果を次世代に引き継ぎ、現在、未来の社会に還元することである。

実際の観測生活・研究の進め方はどうか。年間約百件の短期、長期の

研究が行われている。山頂は気圧が低く健康や知的能力に影響があるので、研究者や職員は標高3000メートルにある宿舎から通っている。職員は八十名ぐらいで、数名ずつが昼間は機械の交換・調整・点検、夜は望遠鏡操作・観測サポートを行う。日本の研究の特徴として研究者が非常に多く、技術者が少ない。研究者が他にサービスマンながら、自分の研究もしなければならぬ。

最後に、二つのブランド・チャレンジャーをあげられた。一つは、宇宙の果を見ること。もう一つは、生命体を持つ地球のような星は他にあるか。これらについて興味あるお話は尽きないが紙面が尽きた。天文学者になってよかったことは、遠い天体を見て、昔の星を、いま見ることの感動との言葉が印象的であった。

(根岸 愛子)



守田科学研究奨励賞贈呈式

(03・5・17)

第五回受賞者は聖マリアンナ医科大学難病治療研究センターの増子佳世博士(リウマチ学)と奈良女子大学共生科学研究センターの村松加奈子博士(自然情報学)である。

増子博士には、我々にとっても関心事である骨関節疾患の治療につながる研究への期待が、村松博士には地球規模で進行している環境破壊の現状の把握とメカニズムの解明への期待がよせられている。

今井会長の挨拶、島委員長の選考過程報告、贈呈式、両博士の講演の後、祝賀パーティー。アルカディア市ヶ谷の「大雪の間」では厳粛な学術的な雰囲気、あたたかな華やかだものに変わっていった。

「ナノの世界に挑戦したい」と、熱い思いの竹中元会長。この賞の資金を遺贈された故守田純子氏の思い出を丸山元会長。第四回の受賞者の中島博士(琉球大学助教授)は、大学でのご自身の立場の好転を語られた。

ご家族、関係者、JAUW会員が心から喜び、励まし、祝いあうこのシーンを、一人でも多くの会員と共に分かち合いたいと思った。(三浦由紀子)

第46回通常総会報告

副支部長 福土仁三代

全国総会は、4月12日から仙台で開催された。東北新幹線「はやて」から降り立った雨模様の仙台は、東京よりかなり寒く感じられた。

初日は、ホテル仙台プラザで評議委員会、支部長懇談会に続いて懇親会が開かれた。会場には、仙台の銘酒や名産品などの販売もあり、華やいだ雰囲気の中で行われた。仙台支部会員の渋谷由美子さんがご主人のピアノに合わせて、すばらしいバイオリンの演奏をして下さった。

翌日の総会は、仙台国際センターに会場を移して行われた。26支部、183名（東京支部から64名）の出席のもと、今井会長を議長に選出した。例年どおり国庫補助事業（全国

セミナー）や各委員会・各支部などからの活動報告の後、午後からは、審議、懇談が行われた。会員資格については、定款変更という重要な問題でもあり、活発な討議がなされた。IFUWにおいても入会基準の見直しという動きがある、という青木IFUW会長の発言も聞かれ、この議題に関しては再度検討することとなった。国際奨学金基金の取り崩しに

ついては原案どおり承認された。また、青木IFUW会長から、国連がIFUWに大きな期待を寄せていることは何かなどが語られた。懇談では、いくつかの提案がなされた中で「大学婦人協会」の名称変更について、一年間かけて検討していくこととなった。

総会後、バスに分乗して宿泊先の「松島一の坊」に案内された。仙台から一時間ほど、日本三景松島を望む瀟洒な旅館で、夕食会が催された。

仙台支部の皆様、本当にありがとうございました。前日鮮やかなブルーのドレスでバイオリンを弾いて下さった渋谷さんが、翌日にはダンボール箱をかかえて、お茶を配って下さったり、支部会員総出のおもてなしに感謝致します。

（次期通常総会
は、二〇〇四年四月三日、
四日、京都で開催
の予定）



仙台支部主催

（松島・仙台市内コース）

総会終了後、夕刻松島に到着。旅館の部屋から眺めた一幅の絵のような松島の美しさに驚嘆。夕闇近くなると、海辺の庭園に無数のかがり火が焚かれ、江戸時代にタイムスリップしたような光景に目をみはる。

朝になると、ウミネコの鳴き声が部屋まで聞こえ、蒼海に点在する島々の松の緑に加えて、初めて聞く鳴き声に引き込まれる思いがする。

4月14日、11支部、総勢31人はバスで出発。今日は晴天に恵まれ、皆、気分も晴れやか。出発後10分でバスを降りて、朱塗りの橋を渡り五大堂へ。お堂の外を一回りしながら、ガイドからお堂の上部に彫られている十二支の説明を聞く。

五大堂から歩いて瑞巖寺へ。総門から修行僧が生活した洞窟などを見て中門へ。中門の左右にある正宗公お手植えの紅梅、白梅が満開。本堂は廊下を一回りしながら、ガイドから説明を聞く。絢爛豪華な唐戸、欄間の彫物、襖の絵の見事に、かつての伊達家の威光がしのばれた。

松島を後に、三陸自動車道を経て仙台市内、勝山館に到着。瑞雲の間

で昼食の後、勝山館の当主のご好意で、蔵舞台、酒蔵を見学する。



修復作業中の仙台城址、東北大学青葉山キャンパスを經由して知事公館に到着する。着いてすぐ目をひくのは正門。この門は仙台城唯一の遺構とのこと。公館は伊達藩以来数々の変遷を経て、今は知事公館、迎賓館として使用されている。

最後に瑞鳳殿へ。ホトトギスの初音を聴きに訪れた正宗公が、この地を墓所にと決められた瑞鳳殿は桃山風の廟建築。国宝に指定されたものは、戦災で消失。現在の本殿は昭和54年に再建されたものである。

仙台メデイアテーク、定禅寺通、東北大学資料館を經由して仙台駅で解散。仙台支部の皆様のご厚情に改めて感謝申し上げます。

（日置 恵子）

仙台支部主催

(厳美溪・平泉コース)

宮沢賢治の詩「あえかの雪をたたえたり」の栗駒山に向って北上すると厳美溪に到る。切り立つ岩々、芽吹き始めた樹々の間の清冽な水の流れにみちのくのたたずまいを味わう。いつくし園で心なごむ午餐を楽しむ、途中奥州藤原氏二代基衡の建立になる毛越寺の平安時代の作庭様式を残す日本最古の庭園を鑑賞した後、いよいよ平泉の中尊寺に向かう。

天台宗中尊寺は慈覚大師の開山で、産金をもとに財をなした奥州藤原氏初代清衡が京風の絢爛たる佛教文化を花咲かせた。深い杉木立の月見坂を登りきると右手に本堂の大屋根が見える。今は覆堂に守られている国宝金色

堂は中尊寺創建当時の現存している唯一の遺構である。堂内には本尊阿弥陀如来を中心に十一体の仏像が三壇に



安置され、堂の内外はすべて漆に金箔を押し、柱や須弥壇には金銀珠玉がちりばめられ、螺鈿細工、透し彫りの金具、蒔絵等お堂全体が一つの工芸品の感。須弥壇の中には、初代清衡、二代基衡、三代秀衡のご遺体と四代泰衡の首級が納められているとの説明を受けた。

平泉はまた薄幸の武将源九郎義経の終焉の地である。義経が京都鞍馬山から金売り吉次に連れられ平泉の秀衡の許に身を寄せたのは十六、七才の頃とのこと。多感なそして人間形成の大切な時を平泉でどのように過ごしたのか。兄頼朝の拳兵に馳せ参じ、平家の公達を西海に沈め輝かしい戦績を収めた英雄は、一転頼朝の反感をかうところとなり追われる身となって平泉に落ちてくる。秀衡の死後、後を継いだ泰衡は鎌倉の圧力に耐えかね一八九年義経を攻める。弁慶ら主従の奮戦むなしく遂に一才。その後泰衡も頼朝の大軍に攻められ百年に渡る奥州藤原氏は滅亡した。仙台支部のご厚意に感謝しつつ改めて奥州の歴史と文化の深さに感じ入った。

(野崎 方子)

ペレンレイさんの
通訳をして

国際奨学委員 平野 和子

モンゴルからの奨学生、ペレンレイさんと初めて会ったのは、「留学生と日本文化を学ぶ会」による俳句の会だった。拙い私の説明を聴いて、

彼女は季語の秋を織り込んだ短い英語の詩を書いた。その後、二度の顔合わせで気心も知れたので、報告会の通訳を頼まれた時、いつになく気軽に引き受けた。だが、直前に来信した発表原稿を見て、愕然とした。

海や川の水質汚濁に関する報告には、シグマやラムダといった、50年近く前のおぼろな記憶に残る記号が並んでいた。慌てて説明を求めたが、日常会話と違う専門分野となると、互いに乏しい英語力では要領を得ない。OHPによる画像やモンゴルの紹介を加え、興味をそそる内容を工夫したもの、理解の不十分なまま通訳する後ろめたさに気が重かった。

ところが、当日の朝、歯磨きをしている時、算出された $\beta = \frac{1}{2} \times 10^{-10}$ という式の α がネガティブということだと、突然ひらめいた。個々の言葉



に囚われず全体を見るという翻訳や通訳の鉄則を忘れて、 α の意味だけに拘泥し、式全体を見ていなかったのだ。ふいに

頭の中の霧が晴れ、疑問が解けた時のあの爽快感に、心が浮き立った。私が自信のないまま臨んでいたら、ペレンレイさんも不安を覚えたことだろう。発表を終えた彼女が達成感に目を輝かせ、熱心に耳を傾けてくれた会員への感謝と私への労いを口にした時、いろいろな意味で意思の疎通は十分はかれたのではないかと確信した。

傍から見ればつまらないことかもしれないが、なぜあの朝、あの時に、ひらめいたのか不思議に思いつつ、また一つ忘れ難い経験をさせて頂いたと感謝している。ペレンレイさんも、異文化の中での貴重な体験を糧に、大きく成長されることだろう。

講演 (03・2・19)

「イスラム文化の女性」

講師 杉森 長子氏



「昨秋訪問したヨルダンとエジプトで女性の活躍ぶりに驚かされ、イスラム社会の本筋を極めたく勉強を始めた。とりわけ九月十一日のテロ以来、アメリカはイスラム世界、特にイラクとは危険な関係になっていく。なぜなのか。イスラム文化理解の必要を痛感した」と講師、杉森長子氏は話の主題を決めた動機を話された。今日のお話の要点を次に記す。

「A」性弱説 イスラムでは、人は本来弱く、誘惑に負けやすいとされ、この考えに基づき生活規範が作られている。主な事例は次の通り。

一、女性はベールをかぶる。男性を惑わせないように。

二、禁酒。人は飲酒の結果、様々な罪を犯すから、禁酒は不可欠。

三、人の気持は長続きしない。結婚には契約書を取り交わす。その際、離婚時の取り決めも行う。結納金より離婚の時の賠償金は多額。

「B」シャリーア 神が人に与えた生きる規範。これに従い生きることがイスラムである。神の言葉を記したコーランは実践には難しいため、法学者達がコーランを研究し、生活の指針となる五つの範疇を決めた。

一、義務(しなければならぬ)

二、したほうがよい。

三、してもしなくてもよい。

四、しないほうがよい。

五、禁止(絶対にしてはいけない)

二、三、四は日常生活で最も多く実践される。祈祷と断食は最も重要な範疇に属するが、妊娠や旅行等個人の状況に合わせて実施される。

個人の裁量に任せられる部分が多く、近代的な生活と調和させて生活のリズムをつくり出せる。イスラムは信念体系の上に築かれた生活の全体、文化の総体を意味すると考えられる。

講師による推薦新書版・三冊

「イスラームの日常世界」(片倉もと子著)、「イスラーム巡礼」(坂本勉著)、「メッカ―聖地の素顔」(野田和嘉著)

「五十嵐康子」

講演 (03・5・28)

「女性の目から見た激動のロシアの27年」

講師 松澤 倫子氏



快い青空に恵まれた午後、千駄ヶ

谷駅近くの会場に四十数名集まり、

遠い国ロシアに引き込まれていきま

した。臨場感あふれるお話の全てを

お伝えできないのが残念です。

一九七三年ブレジネフの時代から

二〇〇〇年プーチンの時代までの二

十七年間ロシアで生活し、外国人の

立場で実感されたロシア人の子育て

の考え方と、岡田嘉子さんとのご親

交の貴重なお話をまとめてみます。

ロシアの子どもたちが次世代を担

う宝として大切にされて、国の保障

をベースにした各地域の子育て制度

が充実していたこと、さらに基礎を

重んじた文化教育に国が力を注ぎ、

一流の芸術家が自ら関わって、その

子ども達の資質を見極めた上で、徹底した訓練と鑑賞力を指導したこと。物質や形ではなく、まず心で感じる事が重視されていたことなどからお話が始められました。

一九三九年、モスクワ芸術院で性格俳優になる勉強をするために杉本良吉とともに国境を越えた岡田嘉子は、三日間の取調べの後、理解出来ぬままさせられたサインで三十五年も政治犯として刑務所暮らしを強いられ、良吉は銃殺されてしまいました。嘉子は常に「生きることは舞台である」と考えて、苦渋に満ちた日々を前向きに毅然として生き抜きました。終生の願いがかなって、名誉回復が実現し、ロシアに杉本良吉博物館が建てられることになりました。テーブルカットに招かれ、万感を胸に、居並ぶロシア人に満面の笑みをもって臨んだ時、嘉子は九十歳でした。日をおかずして、彼女は幻想の中で舞台上に立ち、「ハチャトリアンの剣の舞よ」と口ずさみながら、寝室の窓に向かって「ダスミダーニヤさようなら」と別れの手を振り続けたそうです。二時間を越える今回の講演は感動的で出席者の拍手が盛大でした。

(吉原 雅子)

セミナー「子育て支援情報とICT」の調査研究日誌

昨年12月11日の定例委員会で、二〇〇三年度セミナーの研究発表参加を決定し、メンバーを募った。

02年12月18日

11名で第1回会合を持った。現在、社会が抱える諸問題を列挙して、日本の将来に深く関る「少子化問題」をテーマに選んだ。子供を産み育てる事は人間の根源的な喜びであり、次世代を育成するための国の施策もあるが、社会状況がそれを阻み、人口減少に歯止めがかからない。それは社会が衰退することであり、焦眉の急は年金制度崩壊回避である。

東京支部はセミナーの全体テーマ「女性と情報社会」ICTは女性の未来をいかに拓くか」の【2】「ICTと少子化問題」に取り組み。

都内、都下各自治体が、実施している子育て支援制度や情報をどのように発信しているかをインターネットで調べ、住民の周知度、利用度をアンケートする。

03年1月15日

マスコミの記事などで、子を持つ親が直面している問題を話し合った。従来、保育園入園は定員不足によ

る待機や入園先を自治体が割り振ったが、最近では保護者が選り、希望先に「あき」がなければ待機も出来る。

保育への企業参入で企業・官庁・病院・大学内保育所など、積極的取り組みが散見される。

03年1月27日

今後の作業について自由討議した。

- 一 都内、都下自治体が発信している子育て支援策情報を比較する。
- 二 保育所がHPを開設しているか。
- 三 その他ICT利用例を調べる。
- 四 民間保育所で保護者が保育児の様子をICTで確認できるサービスが提供され、安心出来るが、働く人の労働強化やプライバシーの侵害が心配される。
- 五 日本の人口は2007年にピークを迎え、その後は減少に転じる。
- 六 未婚化や少子化の原因は多様だが、スエーデンやフランスは人口増に成功した。
- 七 産休、育児休暇制度は整備されたが、対応は企業次第であり、父親の育児休暇取得は稀である。

03年2月10日

23区と都下各市を特徴により区分して次の項目をICTで調べる。

- 一 0-6才児の人口

二 実施されている保育施設（保育所、保育ママなど）と制度（零才児、休日、一時、病後保育）。

三 HPを開いているか。

03年2月24日

前日に決めた調査の報告をした。多くの自治体ではHPに保育所一覧等を掲載しているが、詳細は電話問い合わせが必要。情報量、使い易さは差がある。

特色のある区は

T区・都の子育て支援モデル区である。支援サービスの情報量は豊富で丁寧である。

F区・HPの情報充実にしている。公営ギャンブル開催の利益で若年家族を呼び込む施策を実施。少子化対策、福祉政策に特徴がある。

R区、C区、B区、L区、U市などで子育て支援サービスが充実している。

03年3月3日

「少子化を巡る諸問題について」（厚生労働科学研究発表会・2月27日）の参加者から概要報告があった。少子化の原因は①女性の経済的自立による婚姻率低下。②バブル期に就職、結婚年齢を迎えた世代の独身者が一千万人いる。③育児リスク意識が強い。

解決策として「育児保険」導入等

が提案された。

03年3月20日

アンケート実施の方法、対象者と地域、内容について討議した。

一 アンケート案を次回までに作る。

二 ICT利用群と非利用群との情報取得法と量の違いをアンケートの結果で比較する。

三 結果により覆面座談会を行う。

四 育児中の親の発信情報を調べる。

03年4月24日

アンケートについて次の事を決定。

- 一 セミナーまでの日程
- 二 調査対象 支部会員と家族、友人・知人。比較群として2、3の保育園
- 三 調査地域 23区と都下各市
- 四 勉強会 内部講演会、東京都庁で施策や問題点を聞く。

03年5月14日

アンケート案2案（遠藤案、後藤案）について検討。

03年5月21日

調査のため都庁を訪問したが、担当が教育、厚生、労働部門に分かれていて、子育て支援を横断的に扱う部署はない事が分った。資料室で資料を集め、アンケート案を検討して解散した。

03年5月21日

調査のため都庁を訪問したが、担当が教育、厚生、労働部門に分かれていて、子育て支援を横断的に扱う部署はない事が分った。資料室で資料を集め、アンケート案を検討して解散した。

03年5月21日

調査のため都庁を訪問したが、担当が教育、厚生、労働部門に分かれていて、子育て支援を横断的に扱う部署はない事が分った。資料室で資料を集め、アンケート案を検討して解散した。

（記録要約 後藤 晶子）

